

# 堺自然ふれあいの森

ニュースレター 第15号

発行：平成19年9月30日 TSOグループ(指定管理者)

里山シンポジウム開催 2007年3月17日

## 市民が担う里山活動 ～新しい里山とのかかわり方～

### 当日のプログラム

13:00 開会  
13:10 第1部 基調講演  
「保全活動から森林環境教育へ」  
講師：関 隆晴氏  
(大阪教育大学 助教授)

14:15 第2部 パネルディスカッション  
「新しい里山とのかかわり方」  
【パネリスト(事例発表者)】  
・吉川 英宏氏  
(NPO法人 日本森林ボランティア協会)  
・寺川 裕子氏(NPO法人 里山倶楽部)  
・松弘 茂氏(いっちゃんクラブ)  
【アドバイザー】  
関 隆晴氏  
【コーディネーター】  
小河原 孝生  
(NPO法人 生態教育センター)

16:00 閉会  
16:10 交流会

### 第1部 基調講演

大阪教育大学 関氏を迎え、基調講演を行いました。環境保全の概念や子どもを対象にした森林環境教育の事例などについてお話をいただきました。



### 第2部 パネルディスカッション

パネリストとして、里山の保全活動を精力的に行われている団体を招き、いっちゃんクラブ(堺自然ふれあいの森 ボランティア)とともに特徴ある活動内容や取り組みなどを報告していただきました。また、各パネリストからの事例発表をもとに参加者も含めたディスカッションを行い、生業の場として地域で維持されて来た昔の里山とは違う、地域を越えた活動としての「新しいかかわり方」や市民活動の場としての「新しい里山像」など、現代の里山の保全について模索しました。



閉会後の交流会では、お茶を飲みながら和気藹々とした雰囲気の中、時間が経つのも忘れて里山について様々に語られました。

### 『里山シンポジウム～市民が担う里山活動～』の開催主旨

堺自然ふれあいの森などの里山は、かつて担っていた薪炭の供給など、生活基盤としての役割が無くなりつつあります。そのため、地域での維持管理が行われなくなった里山の荒廃が各地で起きています。これからの里山の保全には、市民による地域を越えた様々な取り組みや、関わりが必要になっています。



### 2007年上半期のイベントの様子(一部抜粋)



開園1周年記念イベント(4月1日)



木こり体験(5月26日)



自然と遊ぼう!(5月3・4日)



パパ・ママの子ども救命体験会(6月24日)

# 小学校の校外学習利用



■ 堺自然ふれあいの森では、主に休日に行っているイベント以外にも学校などの団体を対象としたプログラムを提供しています。現在のところ利用が多い小学校3年生を例に、森での過ごし方をご紹介します。

## \* ある学校の事例 \*

対象：小学校3年生 生徒100名(3クラス)・引率者5名

目的：校外学習。堺の自然を体験する。自然に親しむ。



時間	内容
～9:30	到着
9:30～9:50	あいさつ
9:50～10:50	プログラム体験①
10:50～11:00	休憩
11:00～12:00	プログラム体験②
12:00～13:00	昼食
13:00～14:00	プログラム体験③
14:00～	あいさつ・出発

■クラス(組)に分かれてプログラムを体験します。

プログラム名	プログラム名		
	「ハードコール作り」	「カエルの苦勞」	フリータイム
プログラム体験①	1組	2組	3組
プログラム体験②	2組	3組	1組
プログラム体験③	3組	1組	2組

※事前に、来園目的や滞在時間、人数に合わせて、先生と常駐スタッフが話し合い、一日の流れを組んでいきます。

■プログラムは、大きくわけて3つの種類があります。

**観察系プログラム** …自然を楽しみながら観察します。

**工作(クラフト)系プログラム** …もの作りを通して、自然への興味関心を引き出します。

**ワークショップ系プログラム** …模擬体験のゲームなどを通して、環境について学びます。

(※ワークショップとは、グループで行う参加体験型の学習方法です。)

## 一日の流れ (1組の場合)

### あいさつ



森に到着したら、まずは挨拶。森での過ごし方やルールについてスタッフがお話しします。

### プログラム体験① (ハードコール作り)



各プログラム毎に場所を移動して、活動を始めます。(写真は「ハードコール作り」の様子)

### プログラム体験② (フリータイム)



引率者の指導の下、自由に森の中を散策したり、観察をしたりして、過ごします。

### 終了



挨拶をしたら、忘れ物がないか確認して、気をつけて学校へ戻ります。

### プログラム体験③ (カエルの苦勞)



プログラム体験を引き続き行います。(写真は「カエルの苦勞」で模擬体験のゲームをしている様子)

### 昼食



待ちに待った昼食です。青空と緑に囲まれて食べるお弁当は、おいしい!

# プログラムの紹介

## 「バードコール作り」



【内 容】間伐材を使ってバードコール(鳥を呼ぶ道具)を作ります。

【ねらい】・自然に親しむきっかけを作ります  
・野鳥の鳴き声について学びます

【流 れ】鳥の鳴き声の話⇒間伐材をノコギリで切る⇒鳴らし方の練習⇒まとめ



## 「カエルの苦勞(導入編)」



【内 容】生きものとの生息環境の変化の関係について、模擬体験のゲームを通して学びます。

【ねらい】生きものの住む環境の大切さと、生きものへの影響について学びます。

【流 れ】生きものの環境等についての話⇒模擬体験の実施⇒振り返りとまとめ



## ●この他に、よく利用されたプログラム

### 「森のクイズラリー」



▲園内に設定されたポイントのクイズに答えながら森を散策します。

### 「森の図鑑作り」



▲森で気になる自然物を探し、観察した後、図鑑を作ります。

### 「ガイドウォーク」



▲ふれあいの森についての話を聞きながら、森を巡ります。

■学校以外の一般団体にも、ご要望に応じたプログラムを実施いたします。詳細、費用についてはお問合せください。



## ボランティア活動報告(2007年度上半期の様子)

＊いっちゃんクラブ会員は、設定されたそれぞれの活動日に、自由に参加することができます。

### 調査・研究

植物・野鳥・昆虫の調査の他、農作業体験活動と合同で、水田の生きもの調査や自然観察会を行いました。



### 樹林管理

昨年検討された樹林管理計画に基づきゾーン1・3・4の整備に取り掛かりました。間伐や木登り体験のイベントを行いました。



### 農作業体験

大阪府の東西道路建設工事に伴い移転された水田で、お米作りが始めました。田植えや畑の収穫体験のイベントを行いました。



### 環境教育

毎月定例のガイドウォークの下見を行い、指定管理者(TSOグループ)と共催で実施しました。



### イベント企画

今年は、毎月1回の定例クラフト教室に加え、新たに夏休み特別教室を行いました。制作できる作品の種類も増えています。



### 広報

いっちゃんクラブ会員向けの会報誌を毎月発行しています。会員によるイベントや活動を取材し楽しく伝えています。



■現在、私は某ハウスメーカーの緑化事業に関わっており、様々な生きものを呼ぶ庭づくりを勧めています。それは、限られた庭や玄関周りの小さなスペースでも、環境に良くて誰にでも取り組めることで、3本は野鳥の好きな樹、2本は蝶の好きな樹を植える「5本の樹計画」というものです。もちろん、樹の種類は、その地域の植生にあったものを選びます。

■この庭づくりの理想は、地域の環境と一体となった里山的な庭づくりです。ですから、野鳥が好む樹としてよく紹介されるピラカンサなど、海外の樹は植えません。日本のジョウビタキもこの実を食べますが、本来は身近にあるムラサキシキブやセンリョウの実を食べています。なにも海外の樹を植栽しなくても、地域にあった樹が多くあるのです。また、品種改良された樹も植えません。季節はずれに花が咲いたり、実を生らせたりして、野鳥たちが利用できなくなるからです。例えば、ツバキにはたくさんの品種があり、古くから日本に自生するヤブツバキは、メジロが蜜を吸いに来ることで受粉します。ヤブツバキの花びらは厚く、メジロが爪を立てて止まるのに適しています。花びらに止まったメジロは、花の中央にある蜜をなめ、花はメジロを利用して受粉するのです。八重咲きの改良品種には蜜も花粉もありません。

■生きものを呼ぶ庭を目指すときに大切なことは、その地域の樹をできるだけ多く植栽することです。5種よりも10種、1本でも多く植えるのが理想です。樹の種類や数が多ければ、それだけ多くの生きものたちが庭を利用しに訪れます。この取り組みが広がれば、街全体が生きもののための緑地となり、地域の環境を保全することにもなります。そして、その広がり住宅地を抜け、周囲の里山へとつながって行きます。このつながりが大切なのです。

■庭から庭へ、里山へと連続する庭。街全体が大きな森になり、人と里山が繋がっていく。そんな楽しくて新しい取り組みを、ご自宅にある小さなスペースから始めてみませんか。



### 案内図



#### 【交通案内】

##### ● 電車・バスでの来園

泉北高速鉄道「泉ヶ丘」駅 南側2番のりば(南海バス)  
鉢ヶ峯行き「公園墓地北口」下車 約1.2km  
※日曜・祝日は、堺公園墓地 直行便有り  
「堺市立霊堂前」下車 約500m

##### ● 車での来園

阪和自動車道 堺ICより泉北ニュータウン方面へ約7.5km  
「堺公園墓地」を目標に お越しください。

●●●●● お問い合わせ・申込み先 ●●●●●

堺自然ふれあいの森 森の館

〒590-0124 大阪府堺市南区畑1740番地

TEL 072-290-0800 FAX 072-290-0811

ホームページ <http://www.sakai-fureainomori.jp>



発行：堺自然ふれあいの森 TSOグループ(指定管理者)

※TSOグループは、株式会社テクノグリーン・株式会社生態計画研究所・大阪ガスセキュリティサービス株式会社の連合体です。